

総代会の機能について

当金庫は、「会員による自治」を基本に、会員同士の「相互信頼」と「相互繁栄」の精神を基本理念とした協同組織金融機関です。こうした協同組織金融機関である信用金庫の最高意思決定機関は総会です。ここでは、多くの信用金庫が総会に代えて採用している「総代会」についてご説明します。

総代会制度について

信用金庫の会員は出資口数に関係なく、ひとり1票の議決権を持ち、総会を通じて経営に参加することができます。しかし、当金庫においては、会員数が大変多く、総会の開催が事実上不可能なことから、総会に代えて会員の代表者からなる総代会制度を採用しております。

この総代会は、決算、理事・監事の選任等の重要事項を決議する最高意思決定機関であり、会員ひとりひとりの意見を適正に反映できるよう、会員の中から選任された総代により運営されております。

また、当金庫では総代会に限定することなく、日常の営業活動を通じて、総代や会員の皆さまをはじめとして、さまざまなお声を経営施策に反映させるように努めております。

総代の選任や総代会の運営方法等につきましては、基本的事項は信用金庫法に、細則は当金庫の定款に定められております。そして、こうした事項の基本は「会員の自治」であります。

総代とその選任方法

(1) 総代の任期・定数

- 総代の任期は3年です。
- 総代の定数は、50人以上80人以内で、会員数に応じて各選任区域ごとに定められております。なお、平成29年6月30日現在の総代数は80人で、会員数は15,901人です。

※総代選任規程により、総代の数はその選任区域ごとの定数の半数を欠くに至らない場合は、補欠総代の選任を行わないことができます。

(2) 総代の選任区域

- 当金庫の地区を8区の選任区域に分ち、総代の定数は会員数に応じて各選任区域ごとに定めております。

(3) 総代の選任方法

総代は、会員の代表として、会員の総意を当金庫の経営に反映する重要な役割を担っています。そこで、総代の選考は「総代の資格基準」に基づき、次の手続きを経て選任されます。

- ①会員の中から総代候補者選考委員を選考する。
- ②その総代候補者選考委員が総代候補者を選考する。
- ③その総代候補者を会員が信任する（異議があれば申し立てる）。

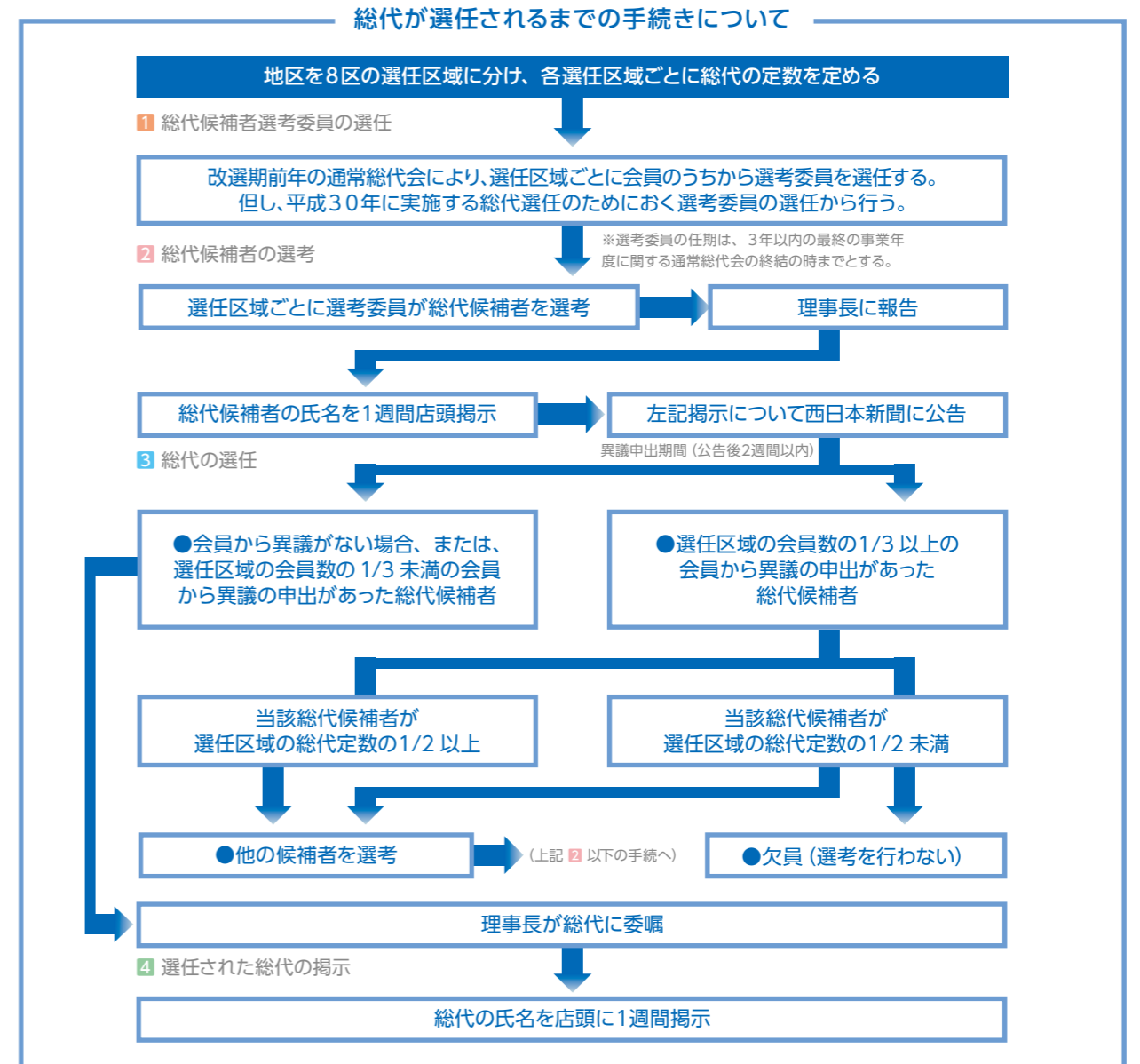
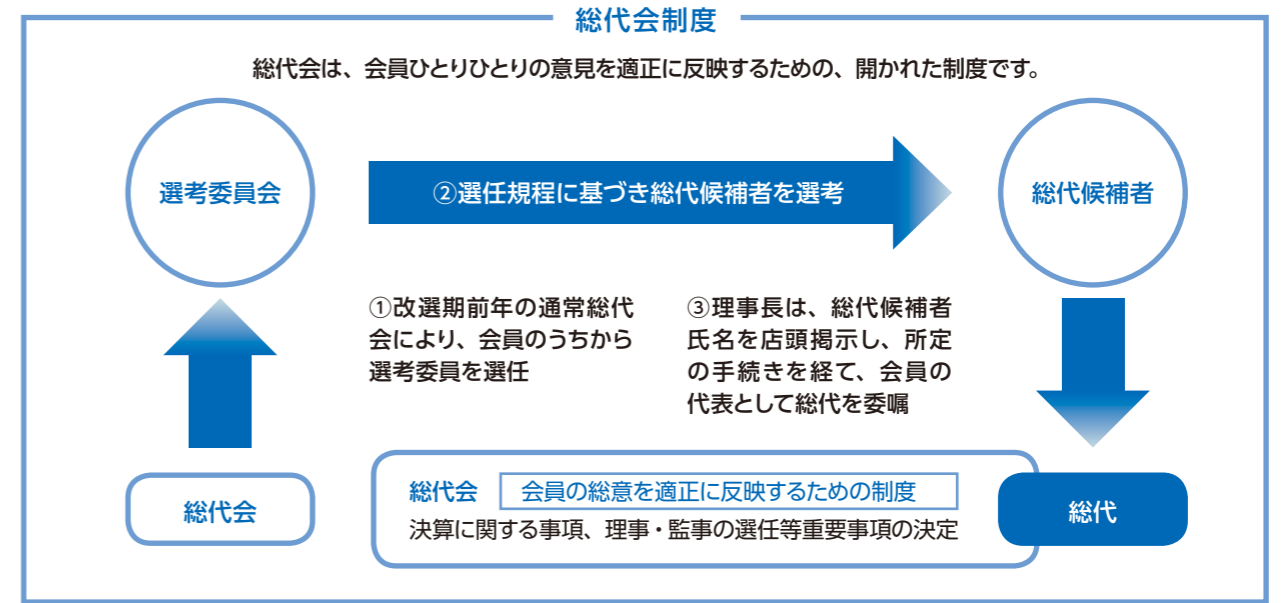
(4) 総代の資格基準

- 当金庫の会員のうち
- ①会員の意見を公正に代表できる見識を有する人格者であること。
- ②金庫の運営に貢献しうるに足る社会的経済的活動を有する人であること。

第74期通常総代会の決議事項

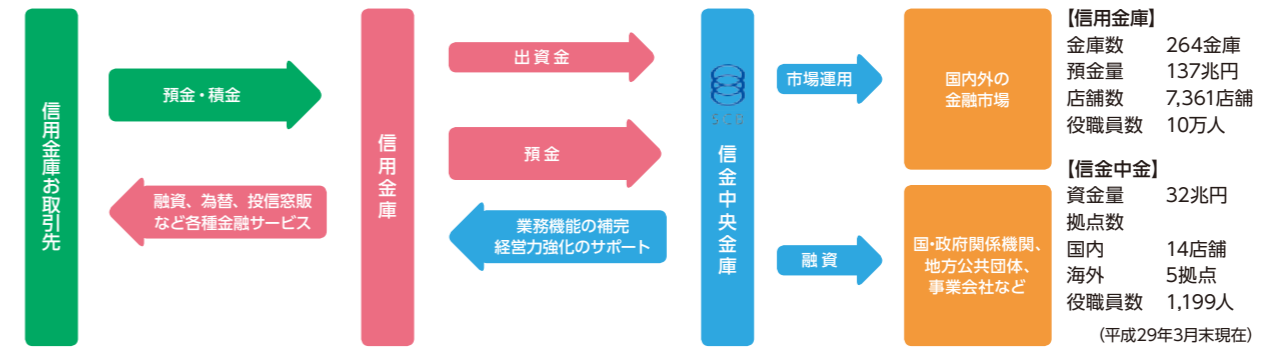
第74期通常総代会（平成29年6月16日）において、次の事項が付議され、原案通り了承されました。

- | | |
|-------------|---|
| 報告事項 | 第74期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）業務報告、貸借対照表及び損益計算書の内容報告の件 |
| 決議事項 | 第1号議案 第74期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）剰余金処分案承認の件 |



信金中央金庫(略称:信金中金)は信用金庫のセントラルバンクです。

信金中金は、全国の信用金庫からの出資によって設立された信用金庫の中央金融機関です。
 全国津々浦々に広がる巨大なネットワークを形成する信用金庫のセントラルバンクとして、信用金庫のニーズにお応えするため、預金、融資、資金・為替の集中決済業務など、さまざまな金融サービスをご提供しています。
 また、信用金庫からお預かりした豊富な資金を元に、約36兆円にのぼる運用資産を、機関投資家として国内外の金融市場において運用しているほか、国・政府関係機関、地方公共団体、事業会社などへの融資も行っています。



信金中金の役割

中央金融機関としての役割
 信用金庫の「中央金融機関」として、①「信用金庫の業務機能の補完」、②「信用金庫業界の信用力の維持・向上」という2つの役割を果たしています。

個別金融機関としての役割
 「個別金融機関」として、①「総合的な金融サービスを提供する金融機関」、②「わが国有数の機関投資家」、そして、③「地域社会に貢献する金融機関」という3つの役割を果たしています。

信用金庫の業務機能の補完
 信用金庫が個別に行うことが困難であったり、非効率である業務の支援に取り組んでいます。

信用金庫業界の信用力の維持・向上
 信用金庫のコンサルタント、ホームドクターとして信用金庫業界の信用力の維持・向上につとめています。

総合的な金融サービスを提供する金融機関
 金融機関の本業業務である預貸金業務・為替業務等を行っています。また、子会社を通じて、信託、証券、投資運用、投資・M&A仲介等の「総合的な金融サービスを提供する金融機関」としての役割を果たしています。

わが国有数の機関投資家
 約36兆円にのぼる運用資産を有し、そのうち約17兆円を国債、地方債、事業債、外国証券等の有価証券で運用するなど、わが国金融証券市場において、「有数の機関投資家」として重要な役割を果たしています。

地域社会に貢献する金融機関
 地方公共団体、地元企業およびPFI事業等への直接貸出を推進しています。また、信用金庫とともに、信用金庫のお取引先の経営改善・企業再生、地域活性化への支援等にも取り組んでおり、「地域社会に貢献する金融機関」としての役割を果たしています。

クローバーしんきんグループの活動

「クローバーしんきんグループ」は、福岡・筑豊地区の4金庫(飯塚・遠賀・田川・福岡)を構成メンバーとして、平成22年6月1日に発足しました。
 私たちは、加盟各金庫の独自性を尊重しつつ、相互の連携を深めていくことにより、場合によっては、1金庫ではなれない総合的な金融サービスをも提供させていただき、地域の経済、社会に貢献することを目指しています。

シンボルマーク
 豊穡の象徴である四つ葉のクローバーと幸運の象徴であるてんとう虫で、4つの信用金庫とその連携・協力を表現。

総代名簿

(平成29年6月16日現在)

区	地区名	総代数	総代氏名(敬称略) (注) 総代氏名後の丸数字は就任回数を表示しています。
1	本町、西町、宮町、片島	4	江藤 照之④ 前田 精一④ 原田 利一郎② 新藤 重任①
2	飯塚、吉原町、徳前、東徳前、西徳前	3	弓削 勝吉④ 園田 盛雄① 藤井 正喜①
3	菰田東、菰田西、菰田、鶴三緒、堀池、忠隈、南尾、平恒、栗市、天道、太郎丸、棕本、久保白、高田、枝国、若菜、秋松、椿、安恒、津原、舎利蔵、弁分、小正	11	加藤 完治① 佐々木 靖彦⑥ 畑 中正行⑤ 村岡 康隆⑤ 石井 基文③ 三浦 修己③ 國武 光秀② 林 幸治② 磯貝 芳明① 林田 俊一① 竹本 健①
4	新飯塚、立岩、新立岩、芳雄町、柏の森、下三緒、上三緒、川島、鯉田、勢田、鹿毛馬、佐與、口原、綱分、山倉、入水、高倉、筒野、赤坂、有安、有井、庄内元吉、大門、仁保、多田	16	大塚 明人⑧ 本松 茂輝⑥ 池田 芳雄⑥ 古賀 利広⑤ 星野 文吉② 吉田 敏明② 米岡 浩昭② 野見山 俊之② 瀧本 和徳② 柴田 多平太① 山本 純一郎① 田代 健次① 新開 純一① 坂口 高昭① 古谷 文孝① 廣瀬 順次①
5	幸袋、中、庄司、津島、柳橋、目尾、吉北、川津、横田、伊岐須、伊川、相田、大日寺、花瀬、潤野、明星寺、八木山、建花寺、蓮台寺	15	野見山 俊郎⑧ 佐々木 和彦④ 志岐 博一④ 柴田 務③ 佐藤 健二③ 有吉 崇③ 林 順一② 石松 孝② 山下 得雄② 田中 裕幸② 辻 政和② 藤上 敬介① 吉留 義文① 濱 良一① 白山 勝也①
6	長尾、平塚、北古賀、阿恵、筑穂元吉、内野、桑曲、弥山、馬敷、山口、大分、内住、嘉麻市、田川市、桂川町、田川郡、行橋市、豊前市、京都郡、築上郡	11	山崎 聰④ 藤井 義則④ 田代 隆博④ 永水 恭典③ 黒木 盛幸② 西尾 康雄② 西川 良二① 高木 和夫① 三宅 利夫① 金田 義幸① 佐藤 弘明①
7	宮若市、鞍手町、直方市、小竹町、中間市、宗像市、福津市、北九州市、遠賀郡	9	武田 紳治⑤ 塩川 幸生⑤ 石橋 康宣⑤ 久場 幹夫④ 水山 一路③ 石田 徹也② 松浦 良人② 中田 正夫① 的野 弘明①
8	福岡市、春日市、大野城市、筑紫野市、古賀市、太宰府市、小郡市、朝倉市、糟屋郡、那珂川町、朝倉郡、糸島市、久留米市、うきは市、大川市、柳川市、筑後市、みやま市、大牟田市、八女市、大刀洗町、広川町、大木町	11	岩見 吉朗⑤ 黒木 潤③ 石坂 博史③ 林 覚乗③ 田中 修治② 岩瀬 文雄② 朝部 定義① 倉田 省三① 古澤 秀治① 石橋 充教① 岩井堂 政裕①
合計		80	

※総代氏名は、任期順、同任期は年齢順、同年齢は店舗順。

総代構成グラフ

